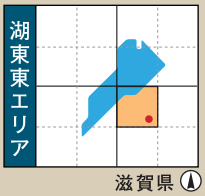
史跡
県指定

木村古墳群（きむらこふんぐん）

蒲生町川合　平成2年3月31指定



木村古墳群は、5基以上の古墳により構成される、滋賀県下では、最大規模の古墳時代中期の古墳群です。名神高速道路の工事などに伴い多くの古墳が失われましたが、残された久保田山古墳と天乞山古墳の2基の古墳が県の史跡として保存活用されています。

当時のできごと	
443年	隅田八幡宮 銅鏡の紀年
471年	行田市 稲荷山鉄剣銘
479年	雄略天皇没　この頃多数の渡来人が来る

木村古墳群について

木村古墳群は、雪野山と布施山との間に挟まれた平野部の南端に位置し、もとは、ケンサイ塚古墳、石塚古墳、入谷（いたち）古墳、久保田山古墳、天乞山古墳等の5基以上の古墳で構成される古墳群でした。名神高速道路や、ほ場整備事業により多くの古墳が失われ、現在では久保田山古墳と天乞山古墳が残るのみですが、石塚古墳については墳丘は失われたものの、周濠が残っていることが確認されています。また、ケンサイ塚古墳は発掘調査が行われており、墳丘径が70～80m、高さ10mという県下最大の円墳であり、鉄製品を始めとする様々な遺物が主体部から出土しています。

久保田山古墳

久保田山古墳は、直径57m、高さ5m以上の円墳で、南北両端に造り出しの付く、類例の少ない形状をしています。全長が70mを超える大型の古墳で、周囲に周濠を巡らします。墳丘は2段築成で、周囲に埴輪を立て並べていました。出土した埴輪のほとんどは円筒埴輪ですが、造り出しの部分には朝顔形埴輪も立てていました。また、墳丘外面は割石による葺石で全面が覆われていたようです。主体部の構造は明らかではありませんが、石室材の一部と思われる石材が出土しています。古墳の築造年代は、出土した埴輪や土器類から5世紀後半代と考えられます。



久保田山古墳造り出し

天乞山古墳

天乞山古墳は、一辺が約65m、高さが推定11m程度の方墳で、南北両端に造り出しの付く、特異な形状の古墳で、方墳としては滋賀県下最大規模、全国でも有数の規模の古墳です。周囲には幅が21～22mの周濠が巡ります。墳丘は2段築成で、西側の造り出しを中心とした部分に葺石を貼り付けます。主体部の構造は明らかではありませんが、石室材と思われる石材があり、竪穴式の石室と考えられます。古墳の構築年代は、出土遺物が無く明らかではありませんが、墳丘の形状から5世紀後半代と考えられます。



天乞山古墳造り出し



木村古墳群　整備前　手前が天乞山古墳



整備後の木村古墳群　手前が久保田山古墳

古墳群の変遷

木村古墳群の南西、雪野山の山頂には、この地域を最初に掌握した王の眠る、古墳時代前期の前方後円墳である雪野山古墳があります。木村古墳群の被葬者は、これに次ぐ時代の人達と考えられます。

全国的に見ても大規模なこの古墳群は、大和朝廷との強いつながりをうかがわせます。この後、首長の系譜は、雪野山の山腹に数多く造営される後期古墳群（八幡社古墳群：学習シートNo.043）に、そして宮井廃寺、雪野寺（学習シートNo.054）を始めとする古代寺院の造営に受け継がれます。

関連する文化財

雪野山古墳（八日市市・近江八幡市・竜王町）	未盗掘の前期前方後円墳
八幡社古墳群（八日市市）	学習シートNo.043
雪野山丘陵後期古墳群（八日市市・竜王町・近江八幡市）	雪野山古墳が築造された山塊に造られた後期古墳群

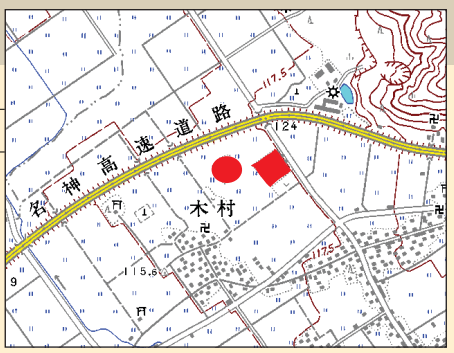
もっと深く知りたい

蒲生町教育委員会　☎0748-55-4893　蒲生郡蒲生町市子川原676

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

木村古墳群へのアクセス

JR琵琶湖線　近江八幡駅下車
名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔木村古墳群調査整備報告書〕蒲生町教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月